

Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care

NASHIM



2022
Vol. 48

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会通信

Contents

- NASHIM設立30周年記念シンポジウム
- ヒバクシャ医療e-ラーニング研修
- 出前講座
- 永井隆平和記念・長崎賞

NASHIM 設立30周年記念シンポジウム



NASHIM設立30周年記念シンポジウム(2022年2月20日)

NASHIM

設立30周年記念 シンポジウム

参加費無料

日時 2022年 2月20日 日

13:00~17:25(開場12:00)

場所 オンラインライブ配信

▼お申し込みはコチラ

QRコードにより事前申込要

※申込み期間:1/4(火)~2/14(月)まで



機関誌「NASHIM Vol43号(2018)」グラバー園にて
韓国医師受入研修

PROGRAM

プログラム【第1部】



13:15~
〈記念講演〉
公立大学法人
福島県立医科大学
副学長

山下 俊一



13:55~
〈特別講演〉
永井隆平和記念・長崎賞
第8回受賞者
ビュルツブルグ大学
名誉教授
クリストフ・ライナー

「NASHIM」とは

- NASHIM(長崎・ヒバクシャ医療国際協力会)は、在外被爆者及び世界各地で発生している放射線被ばく事故による被災者の救済を目的に平成4年(1992年)4月に設立されました。
- NASHIMはこれまで約600名以上の医師や研究者を受入れて、被ばく者医療の研修を行ってきました。
- また、平成7年(1995年)長崎原子爆弾被爆50周年にあたり、永井隆博士の崇高な平和希求の精神を引き継ぎ、国際社会におけるヒバクシャ医療への貢献者を広く顕彰する「永井隆平和記念・長崎賞」を制定しました。

プログラム【第2部】

15:45~

〈座談会〉「ナシムのこれからの活動と今後の課題」

主催 | 長崎・ヒバクシャ医療国際協力会(NASHIM)

共催 | 長崎大学原爆後障害医療研究所

後援 | 厚生労働省、放射線被爆者医療国際協力推進協議会(HICARE)、国立大学法人長崎大学、一般社団法人長崎県医師会、一般社団法人長崎市医師会、長崎原子爆弾被爆者対策協議会、公益財団法人放射線影響研究所、日本赤十字社長崎原爆病院、長崎県、長崎市

お問い合わせ先

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会(ナシム)事務局
Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care (NASHIM)

〒850-8570 長崎市尾上町3番1号 長崎県原爆被爆者援護課内
TEL(095)895-2475 FAX(095)895-2578
[ホームページ] <http://www.nashim.org/>

NASHIM

設立30周年記念シンポジウム

日時 2022年 **2月20日** 日 13:00~17:25

参加費無料



PROGRAM



オンラインライブ配信

プログラム【第1部】

13:00~13:15 開会挨拶・来賓挨拶

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 会長	森崎 正幸
長崎県知事	中村 法道
長崎市長	田上 富久
公益財団法人 笹川保健財団 会長	喜多 悦子
国立大学法人 長崎大学 学長	河野 茂

13:15~13:55 〈記念講演〉

「長崎と世界の絆:なしむ」

公立大学法人福島県立医科大学 副学長 山下 俊一

13:55~14:35 〈特別講演〉

「小児甲状腺癌」

※特別講演は日本語字幕で進行します。

ビュルツブルグ大学 名誉教授 クリストフ・ライナー

14:35~15:35 研修生の現状

※研修生の現状は日本語字幕で進行します。

ベラルーシ:バレンティーナ・ドロツツ ウクライナ:コスタンティン・バジカ
ロシア:ウラジミール・サエンコ カザフスタン:アイヌール・アキルジャンワ

プログラム【第2部】

15:45~17:15 座談会「ナシムのこれからの活動と今後の課題」

〈座長〉長崎大学病院 教授	上谷 雅孝
〈パネリスト〉福島県双葉郡川内村 村長	遠藤 雄幸
放射線被曝者医療国際協力推進協議会(HICARE) 公益財団法人 放射線影響研究所 業務執行理事	児玉 和紀
長崎・ヒバクシャ医療国際協力会(NASHIM) 長崎大学原爆後障害医療研究所 教授	高村 昇
長崎県福祉保健部 部長	寺原 朋裕

17:15~17:25 閉会挨拶

日本赤十字社長崎原爆病院 院長 谷口 英樹

参加申込書

シンポジウム(オンラインライブ配信)は事前申込みとなりますので、参加を希望される方は、右記のQRコードまたはナシムのHPにてお申込ください。後日、視聴用URL(Zoom)をお送りします。

申込み期間: **1/4(火)~2/14(月)まで**

[ナシムホームページ]

<http://www.nashim.org/>

ナシム

検索



長崎・ヒバクシャ医療国際協力会(ナシム)事務局

Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care (NASHIM)

NASHIM設立30周年記念シンポジウム

2022年2月20日（日）オンラインライブ配信で開催しました。
その内容をご紹介します。

第1部

【開会挨拶】

○長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 会長 **森崎 正幸**

本日「ナシム設立30周年記念シンポジウム」をオンラインライブ配信という新たなスタイルで開催いたしましたところ、多くの皆様方のご参加を賜り、心からお礼を申し上げます。

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会、通称ナシムは、在外被爆者及び世界各地で発生した放射線被曝事故による被災者の救済を目的として、長崎大学、長崎大学医学部、日赤長崎原爆病院、放射線影響研究所、県・市医師会等と長崎県、長崎市が構成メンバーとなり、平成4年4月に設立されました。



森崎ナシム会長挨拶

設立以来、ナシムは被爆地・長崎が有する被爆者医療の実績と放射線障害に関する調査研究の成果を活かし、チェルノブイリ関連諸国・カザフスタンからの医師受入研修や韓国からの医療従事者受入研修、専門医師の派遣、医学教科書の出版などの事業を行い、今年で設立30周年を迎えることとなりました。また、平成7年に故永井隆博士の崇高な平和希求の精神を引き継ぎ、国際社会におけるヒバクシャ医療の向上、発展に貢献のあった方を広く顕彰するため、「永井隆平和記念・長崎賞」を創設し、13回で15名の受賞者を数えるに至りました。

このたび、ナシムのこれまでを振り返り、これからの活動と今後の課題についてご提言いただくシンポジウムを開催いたしますが、このシンポジウムが皆様のヒバクシャ医療に対するより一層の理解と、ヒバクシャ医療を通じた長崎からの国際貢献の推進に役立つものとなれば幸いに存じます。

講演をご快諾いただいた講演者の方々に心からお礼を申し上げますとともに、座談会のパネリストの皆様には「ナシムのこれからの活動と今後の課題」について、活発なご議論と忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、開催にご尽力いただいた関係の皆様には厚くお礼申し上げますとともに、本日、ご参加の皆様のみますますのご健勝とご活躍をお祈りいたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

【来賓挨拶】

○長崎県知事

○長崎市長

○公益財団法人笹川保健財団 会長

○国立大学法人長崎大学 学長

中村 法道 (代読 長崎県副知事 上田 裕司)

田上 富久

喜多 悦子

河野 茂



長崎県知事 中村 法道
(代読 長崎県副知事 上田 裕司)



長崎市長 田上 富久



公益財団法人 笹川保健財団
会長 喜多 悦子



長崎大学学長 河野 茂



【記念講演】

講師 **山下 俊一 氏**

公立大学法人 福島県立医科大学 副学長

演題 「長崎と世界の絆：なしむ」



主な経歴

- 1990年 長崎大学医学部附属原爆後遺障害医療研究施設教授
- 2004年 世界保健機関本部環境健康局放射線科学官
- 2011年 福島県立医科大学副学長
- 2013年 長崎大学理事・副学長
- 2018年 福島県立医科大学理事長特別補佐・副学長、長崎大学名誉教授
- 2021年 量子科学技術研究開発機構放射線医学研究所所長

講演概要

永井隆博士の代表作である長崎の鐘は、NASHIM（ナシム）活動の精神的支柱である。この30年間にわたり、長崎の地からチェルノブイリ医療支援活動に参画し、その後、福島原発事故の混乱と混迷に身を投じた一医療人として、ナシムの活動そのものが、グローバル社会における多様性の調和に貢献し、人材育成の要であることを強く確信している。

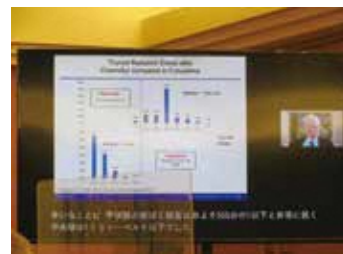
激動する21世紀の現代社会は、人新世と言われるように人が成せる業により、経済社会活動のみならず、地球環境や健康問題などへ大きな影響を与えているが、今こそナシムが果たすべき長崎と世界の絆の大切さを共考したいと思う。

【特別講演】

講師 **クリストフ・ライナー氏**

ビュルツブルグ大学医学部 名誉教授
永井隆平和記念・長崎賞第8回受賞者

演題 「小児甲状腺癌」



主な経歴

- 1978年 ビュルツブルグ大学核医学部医学情報学科追加資格を持った上級核医学医師
- 1897年 エッセン大学核医学部助教授
- 1989年 エッセン大学核医学専任教授兼院長
- 1994年 ビュルツブルグ大学核医学部専任教授兼所長
- 2001年 ビュルツブルグ大学医学部長常務
- 2016年 ビュルツブルグ大学名誉教授

講演概要

小児甲状腺がん発症に最も影響を与えるのは放射線被ばくである。チェルノブイリ原発事故後、汚染した食物などを通じて甲状腺被ばくが起り、小児甲状腺がんが多発した。一方で福島第一原発事故後は、食品管理の徹底などによりチェルノブイリ原発事故後と比較して被ばく線量は非常に低い。事故後の福島県民健康調査で発見された小児甲状腺がんは、今のところ疫学的に放射線との関連が示されていない。こうした研究の一部は故長瀧重信先生、山下俊一先生らと共に進めてきた。甲状腺がんの治療には外科手術に加え、全身に広がった場合でも高い有効性を示す放射性ヨウ素内用療法がある。ベラルーシの小児甲状腺がん治療プロジェクトを立ち上げ、多くの患者治療に当たってきた。

【研修生の現状】



●ベラルーシ

故バレンティーナ・ドロツツ氏 (2005 年研修生)

多くの科学者や医師がNASHIMのプログラムで訓練を受け、放射線医学の知識を深めることができ、その後の被爆者の治療や医療の改善に役立てることができた。

※NASHIM設立30周年記念シンポジウム開催直前の2022年2月18日にご逝去されました。こちらは1カ月前に撮影されました写真です。

●ウクライナ

コスタンティン・バジカ氏 (2010 年研修生)

長崎大学での講義のほか長崎大学病院での実習では、病歴の検討、電離放射線の影響を受けた人々の治療に関する議論を行い外来診察、最新の診断方法などを学んだ。



●ロシア

ウラジミール・サエンコ氏 (1999 研修生)

8月9日の「原爆の日」の追悼式に参加したことは、とても心が動かされる出来事で、原爆で亡くなった方々への思いや願い、大切に守られた記憶、平和への訴えと努力を感じた。

●カザフスタン

アイヌール・アキルジャノワ氏 (2005 年研修生)

NASHIMのプログラムでは、血液学・分子疫学の分野で医療研修を受けた。長崎大学で被爆者の治療や放射線障害研究の記録や指導について学ぶことができ、とても感謝している。



研修生の皆様より、NASHIMでの研修を受講できたことにとっても感謝しており、その経験は絶対に忘れられないものであると報告がありました。

NASHIMでは、平成5年からロシア、ウクライナ、ベラルーシなどのチェルノブイリ原発事故周辺諸国や旧ソ連の核実験場があったカザフスタンで、放射線ヒバクシャの治療にあたる医療従事者に対する指導、技術援助や医療情報提供を行うため、関係機関の協力を得て、独自に医師等の研修生を受け入れています。

研修期間中には長崎大学や長崎大学病院での講義等に加え、長崎原爆資料館や長崎原爆死没者追悼平和祈念館の見学、平和祈念式典への参列など、長崎原爆の実相について学び、日赤長崎原爆病院、放射線影響研究所長崎研究所、恵の丘長崎原爆ホームなどへの視察訪問を通して、日本の原爆被爆者への援護ケアについても理解を深めています。令和2～3年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、実施できていませんが、これまで受け入れた研修生は帰国後大いに活躍されています。

第2部

【座談会】 「ナシムのこれからの活動と今後の課題」

座長
パネリスト

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授
福島県双葉郡川内村 村長
放射線被曝者医療国際協力推進協議会 (HICARE)
公益財団法人放射線影響研究所 業務執行理事
長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 (NASHIM)
長崎大学原爆後障害医療研究所 教授
長崎県福祉保健部 部長

上谷 雅孝
遠藤 雄幸

児玉 和紀

高村 昇
寺原 朋裕



上谷座長



遠藤村長



児玉業務執行理事



高村教授



座談会の様子



寺原部長

【座談会】 概要

第2部は、「ナシムのこれからの活動と今後の課題」というテーマで座談会を行いました。

始めに4名のパネリストの皆様が自己紹介を兼ねてスライドを使用した10分間程度の講演を行いました。

その後、NASHIMとHICAREのこれまでの活動、HICAREとNASHIMとのあるべき連携の姿、震災後の福島県川内村の今後のあり方、NASHIMのこれからのあるべき姿等について討論されました。

今後は、長崎と広島そして、福島が連携し、グローバルな人材育成を行うことを通して、ナシムが大きな活動の柱となっていければという将来を見据えた積極的なご意見が出され座談会は終了しました。

【閉会挨拶】

○日本赤十字社長崎原爆病院 院長 谷口 英樹



ヒバクシャ医療e-ラーニング研修事業

例年、チェルノブイリ関連諸国・カザフスタン及び韓国より研修生を招聘し、被ばく医療研修を行っておりますが、コロナ禍のため、研修生の受け入れが難しいことから、オンデマンドでのe-ラーニング研修を実施いたしました。

実施期間 令和4年2月1日～2月28日
受講生 87名

講師 宮崎 泰司氏
長崎大学原爆後障害医療研究所 教授

テーマ 「放射線、原爆および血液学」

原爆放射線によって被爆者では白血病、骨髄異形成症候群といった血液腫瘍の発症リスクが上昇した。いずれも被ばく放射線量が増加するとリスクが増加していたが、被爆時年齢、性別、放射線量とリスクの関係など詳細な点はそれぞれ異なっている。また、被爆者の骨髄異形成症候群に見られる染色体、ゲノム変異は自然発症例や治療関連発症例とは異なる特徴を持っており、これらとは病態が違っていることが考えられる。



宮崎教授

講師 高村 昇氏
長崎大学原爆後障害医療研究所 教授

テーマ 「チェルノブイリと福島からの教訓」

1986年のチェルノブイリ原発事故では、放射性ヨウ素に汚染された食品（特に牛乳）の摂取に伴う甲状腺の内部被ばくによって、事故当時小児だった世代に甲状腺がんが増加した一方2011年の福島第一原発事故では、避難や食品管理によって被ばく線量の低減化が図られた。本研修では二つの原発事故による対応の違いとそれによる被ばく線量の違い、そこから推定される健康影響の違いについて概説する。



高村教授

講師 松田 尚樹氏
長崎大学原爆後障害医療研究所 教授

テーマ 「福島原発事故後の放射線環境と被ばく線量評価」

東京電力福島第一原子力発電所事故後の福島県内の放射線モニタリング状況、及び周辺住民と初期対応者の外部被ばく、内部被ばく線量評価について概説する。



松田教授

講師 中島 正洋氏
長崎大学原爆後障害医療研究所 教授

テーマ 「原爆被爆者に観られた人体影響について」

放射線被ばくによる人体影響は原爆被爆者の健康影響調査によって明らかになった。全身高線量率高線量外部被ばくによる急性期障害の特徴、胎児被ばく影響としての小頭症の病理組織像、晩発性影響としての固形がんの疫学的特徴について概説する。さらに長期にわたって継続する放射線関連固形がん発症メカニズムの分子病理に関する研究について紹介する。



中島教授

講師 横田 賢一氏

長崎大学原爆後障害医療研究所 助教

テーマ 「原爆被爆者の健康管理と疫学研究」

原爆による人体被害は、戦時の爆弾兵器によるものであるがゆえに放射線影響のみならず外傷、熱傷から精神・心理、環境因子によるものまで広範囲におよんでおり純粋な放射線影響のみの評価は難しい。講演では、がんリスクの上昇など、疫学研究で得られた放射線影響の基礎的知見や当研究所の研究集団、線量推定について紹介すると共に、被爆者の健康維持の日本の援護制度を紹介し、これが原爆や被爆者を取り巻く状況を理解するための一助となればと願っている。



横田助教

講師 鈴木 啓司氏

長崎大学原爆後障害医療研究所 准教授

テーマ 「放射線生物学」

放射線健康影響の基礎となる放射線の生物作用について、ごく初期の、放射線エネルギーと生体高分子との物理・化学的相互作用の過程から始まり、DNA分子レベルでの変化、細胞レベルでのDNA損傷修復と応答、そして組織反応までの一連の諸過程を概説する。特に組織反応（確定的影響）や確率的影響の発現に係わる分子プロセスについては詳細を議論し加えて、低線量放射線の影響について、組織内での線量の蓄積の観点から、現在までに明らかになっている科学的知見を総括する。



鈴木准教授

研修生の感想

- 興味深く詳細な講義をありがとうございました。チェルノブイリの生態学的災害と福島を比較した講義が本当に気に入りました。福島との相違点と類似点は何か、また、当時の人体への放射線の影響、現在も放射線が人体にどのように影響し続けているか、そして日本政府がどのように市民を保護しているのかを知ることができて、非常に興味深いものでした。
- 講義の内容は非常に興味深く、提示されたデータは高い信頼性を持っていました。放射線量のレベルとさまざまな病気を発症する可能性との関係について話を伺えたのは興味深いことでした。オンラインの形式だったので、都合の良いときに講義を聞いたり、興味のあるスライドに戻ったりすることができました。どうもありがとうございます。
- 私は今回の講義を聴くことができるとてもうれしいです。アクセスも簡単であり、内容も簡潔で、そして非常に興味深い内容でした。直接講義に参加する機会がなかったのは残念ですが。
- それぞれの講義は大変重要なものでした。過去の悲しい経験を思い出し、将来これが起こらないようにできる限りのことをする必要があります。研究結果の相互交換は、大惨事を防ぎ、人々の健康を守るのに役立ちます。このようなオンラインコースを企画していただきありがとうございます。オンライン形式は非常に便利で、講義を見るのに便利な時間を選択できました。複雑な内容をわかりやすく説明してくれたすべての先生に感謝します。今回のオンラインの講義をありがとうございました。
- 非常に詳細な分析の講義でしたが、これは専門スタッフには適していると思いますが、開業医には少し難しい内容でした。

令和3年度の出前講座

出前講座とは？

ナシムでは小中学生を対象に、これまで長崎で培ってきた「ヒバクシャ医療の国際協力」や「放射線被ばく医療」等についての知識を普及することにより、生徒たちの平和と科学・医療への興味・関心を促し、放射線医療科学を通じた国際貢献等に寄与する後継者の育成につなげるため、長崎大学の先生方が学校を訪れて講義を行います。

今年の第1回目は6月9日に長崎市立三川中学校で開催しました。

1年生43名を対象に、長崎大学の三根眞理子先生が、「長崎原爆の話・原爆直後の救護活動」と題して45分の講義を行いました。

第2回は6月11日に長崎市為石小学校において5年生19名を対象に松田尚樹先生が、「放射線・紫外線とわたしたちの健康」と題して45分の講義を行いました。

出前講座は、県内すべての小中学校で開催します。



長崎市三川中学校にて



長崎市為石小学校にて

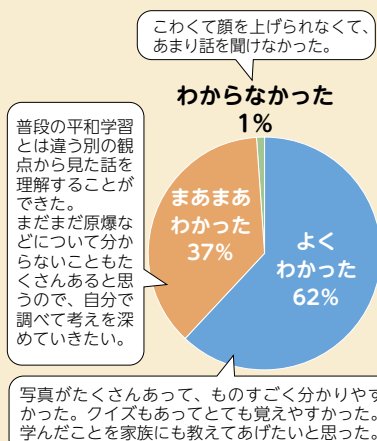


諫早市長崎日本大学中学校にて

今年度は申し込みが多数あり、小学校4校、中学校8校の全12回、延べ1,038名に対し実施しました。出前講座終了後に実施したアンケートでは、半数以上の生徒さんたちがよくわかったと回答されました。

	日時	学校名	講義名	アンケート結果				%	受講生	先生
				よくわかった	まあまあわかった	わからなかった	合計			
1	6月9日	三川中学校	長崎原爆の話・原爆直後の救護活動	36	6	0	42	100	43	三根
2	6月11日	為石小学校	放射線・紫外線とわたしたちの健康	13	4	1	18	94.4	19	松田
3	6月18日	為石小学校	長崎原爆の話・原爆直後の救護活動	15	3	0	18	100	19	三根
4	6月23日	手熊小学校	長崎原爆の話・原爆直後の救護活動	9	6	0	15	100	14	三根
5	7月1日	小江原中学校	長崎原爆の話・原爆直後の救護活動	81	25	2	108	98.1	114	三根
6	7月1日	日吉中学校	実習No.1 測ってみよう 放射線	11	4	0	15	100	16	松田
7	7月2日	琴海中学校	放射線・紫外線とわたしたちの健康	24	47	2	73	97.3	98	松田
8	7月5日	丸尾中学校	身近な放射線の話	14	8	0	22	100	24	松田
9	7月9日	琴海中学校	長崎原爆の話・原爆被爆者のこころの調査	72	17	2	91	97.8	96	三根
10	7月9日	東長崎中学校	放射線・紫外線とわたしたちの健康	113	126	6	245	97.6	247	松田
11	7月14日	日本大学中学校	長崎原爆の話・原爆直後の救護活動	189	102	2	293	99.3	330	三根
12	10月14日	香焼小学校	原爆直後の救護活動と調査	18	4	0	22	100	18	三根
			合計	595	352	15	962	98.4	1,038	

講座内容について



生徒さんたちからの質問もありましたので、一部をご紹介します。

なぜ長崎と広島のアノ子爆弾は違ったの？

天然ウランはウラン235とウラン238があります。

原爆にはウラン235が用いられますが、ウラン235は少ないので、濃縮する必要があり、原爆1個あたりの製造コストはプルトニウム原爆より高価になります。

プルトニウム239は自然界にはほとんど存在しませんが、原子炉内で副産物としてできるため、ウラン235のように濃縮する必要がありません。

また、臨界量がウラン235に比べてかなり少量で済むのでウラニウム原爆より安く作れます。

安くて強力な原爆を作る研究のため違うものが作られました。

なぜ長崎に原爆が投下されたの？

原爆を投下する都市を決めるときに、次のような都市にしたと言われています。

- ・原爆投下により、日本の国民が戦争を続ける意思をなくさせるような都市
- ・日本の軍隊や工場などがある都市
- ・空襲による被害を受けていなくて、原爆の力や効果がわかりやすい都市

最終的に広島・小倉・長崎が投下目標となりました。8月9日の最初の目標は小倉でしたが、曇りで視界が悪く原爆投下を断念、第2目標だった長崎に向かったと言われています。

まだ調査はしていますか？最近わかったことはありますか？

放射線が人の健康に与える影響についての調査・研究は続いています。

放射線影響研究所では1950年から長年継続しています。

最近わかったことは、骨髄異形成症候群という血液の病気です。多重がんも新しい発見です。がんが転移して、いくつものがんになるのではなく、別々のがんができています。

講師の先生方、参加していただいた生徒の皆さん、ありがとうございました。

令和4年度の出前講座

下記の幅広いメニューを小中学生の皆さんにわかりやすく説明いたしますので、興味をお持ちでしたらぜひ事務局までご連絡ください。講座費用は無料です。

講座メニュー		
【実習】測ってみよう 放射線		90分 (短縮可)
放射線・紫外線とわたしたちの健康		
身近な放射線の話		
長崎原爆の話	原爆直後の救護活動と調査 長崎原爆被爆者のこころの調査	

ご紹介

書籍 「漫画で学ぶ長崎原爆」 平成30年3月発刊



長崎原爆についての学習に活用していただけるよう、小中学生向けの小冊子「漫画で学ぶ長崎原爆」を作成しています。

原爆投下前の長崎、原爆投下、終戦と復興など、当時の航空写真や各種資料を盛り込み、わかりやすく説明しています。

各学校での平和学習、修学旅行生の事前学習としてぜひ、ご一読ください。

※ナシムホームページからPDFファイルをダウンロードしてください。

「ナシムホームページ」



ナシムホームページ (<http://www.nashim.org/>) ではナシムが行っている事業の概要を始め、これまで出版した書籍、機関誌や活動記録などを閲覧できます。

各書籍の一部と機関誌はPDFファイルにて無料でご提供しておりますので、ご利用ください。



第14回永井隆平和記念・長崎賞の候補者を募集

ナシムでは、長崎原子爆弾被爆50周年にあたる平成7年に、原子爆弾により自らも重傷を負いながらも被爆者の救護に挺身された永井博士の功績を称え、「永井隆平和記念・長崎賞」を創設しました。

この賞は永井博士の崇高な平和希求の精神を引き継ぐ、原子爆弾による被爆者及び放射線被曝事故等による被災者に対する治療及び調査研究の分野において、ヒバクシャ医療の向上・発展、ヒバクシャの福祉の向上を通じて世界平和に貢献し、将来にわたる活躍が期待される国内外の個人や団体を顕彰するもので、令和4年は第14回目を実施予定です。

5月から候補者の募集を開始する予定ですので、本賞の候補者としてふさわしい方をぜひご推薦ください。詳細については随時ホームページでお知らせします。



歴代の永井隆平和記念・長崎賞受賞者

表彰回数	氏名	職名
第1回受賞者	秋月 辰一郎	聖フランシスコ病院顧問 医師
第2回受賞者	サイム・バルムハノフ	放射線腫瘍医学研究所所長 (カザフスタン共和国)
第3回受賞者	ヨハネス・ヤコブ・ブローゼ	ライデン大学教授 (オランダ)
第4回受賞者	エヴゲニィ・デミチュック	保健省放射線内分泌研究所甲状腺部門部長 (ベラルーシ共和国)
	鎌田 七男	(財) 広島原爆被爆者援護事業団理事長
第5回受賞者	日本チェルノブイリ連帯基金	長野県松本市 (理事長 鎌田寛祖)
第6回受賞者	市丸 道人	長崎大学名誉教授
	横路 謙次郎	広島大学名誉教授
第7回受賞者	アナトリィ・ツイーブ	ロシア医学アカデミー・オブニスク医学放射線研究所長
第8回受賞者	クリストフ・ライナー	ドイツ・ビュルツブルグ大学病院院長
第9回受賞者	ミコラ・トロンコ	ウクライナ医学アカデミー内分泌代謝研究所所長
第10回受賞者	丹羽 太貴	福島県立医科大学特命教授
第11回受賞者	ドミトリー・バジーカ	ウクライナ国立放射線医学研究センター所長
第12回受賞者	タチアナ・ボグダノワ	ウクライナ国立内分泌代謝研究所内分泌病理研究部門長
第13回受賞者	佐々木 康人	湘南鎌倉総合病院附属臨床研究センター・放射線治療研究センター長 放射線影響協会理事長

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 ^{ナシム} (NASHIM) の概要

● **代表者** 会長 森崎 正幸 (長崎県医師会会長) (平成 30 年度 就任)

● 設立目的

在外被爆者及び世界各地で発生している放射線被曝事故による被災者の救済を目的として、1992年 (平成4年) に設立。

長崎が有する被爆者治療の実績及び放射線被害に関する調査研究の成果をこれらのヒバクシャの医療に有効に活かしてもらうため、国外からの医師等の受入研修や国外への専門医師等の派遣及びヒバクシャ医療に関する専門図書等の発刊・寄贈などを実施し、ヒバクシャ医療を通じて長崎から世界への貢献と国際協力の推進に努めています。

● 組織

長崎県、長崎市、長崎大学、日本赤十字社長崎原爆病院、放射線影響研究所、原子爆弾被爆者対策協議会、長崎県医師会、長崎市医師会、長崎平和推進協会等のヒバクシャ医療に携わる関係機関で構成。

それぞれの機関から理事、運営委員等を選出し事業を実施しています。

● 主な活動内容 (業績)

ロシア、ウクライナ、ベラルーシなどのチェルノブイリ原発事故関連諸国や旧ソ連の核実験場があったカザフスタン共和国などの被災地や、被爆者が多く居住する韓国等から、これまで409名の医療従事者の受入研修、163名の医師等派遣、ロシア語の医学教科書等多くの図書出版など、指導、技術支援、医療情報の提供等を通じ、人材育成に貢献しています。

また、外務省関係の支援委員会の補助を受け、ロシア、ベラルーシに対し、医療機器や医学教科書の寄贈を行うほか、日本国政府が支援を表明した「セミパラチンスク地域医療支援」JICAプロジェクトへ参画し、現地での活動参加や研修生の受入を行うなど、国の施策にも積極的に参画しています。

● 受賞歴

①平成12年10月

ヒバクシャ医療に関する国際貢献により、第52回「保健文化賞」を受賞

②平成14年10月

ベラルーシ共和国政府より感謝状授与

③平成18年7月

ヒバクシャ医療に関する国際貢献により、平成18年度外務大臣表彰を受賞



長崎・ヒバクシャ医療国際協力会通信
第48号
発行／令和4年3月

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 (NASHIM)
〒850-8570 長崎市尾上町3-1 (長崎県原爆被爆者援護課内)
TEL 095(895)2475 FAX 095(895)2578
<http://www.nashim.org/>